

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県 気仙沼市立 唐桑中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒 988 - 0541
宮城県気仙沼市唐桑町北中 130 番地
 E-mail : karakuwa-chu@kesenuma.ed.jp
 Website : なし
 児童生徒数：男子 74 名 女子 61 名 合計 135 名
 児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ : 2050年の唐桑のエネルギーについて考え、提言する

1 本校のESDでめざすもの

(1) ESDのねらい

持続的・発展的な社会をつくるために、ふるさとを思いながら、夢や志、プラスの気付きをもってエネルギーについて学習し、考えを提言していく。

(2) ESDで育てたい資質・能力

- ① 問題や現象の背景を理解し、多面的・総合的に考える力。
- ② 人間の尊重、多様性の尊重、環境の尊重などを見出す力。
- ③ 批判的に思考・判断する力。
- ④ 情報を収集し、分析する力。
- ⑤ コミュニケーションをする力。

2 本校のESDのプログラム

(1) 取組の概要

原子力を含め、エネルギーを正しく理解し、学ぶことを通して、資源・エネルギー問題を考えさせる。学んだことを通して、2050年ふるさと唐桑のエネルギーをどのように供給し、利用していくかを考え、提言する。主に、総合的な学習の時間（通称：3Qタイム）に活動を行う。

学年	テーマとねらい	主な活動
全校	持続的・発展的な社会をつくるために、ふるさとを思いながら、夢や志、プラスの気付きをもってエネルギーについて学習し、考えを提言していく。	エネルギー学習に関する全校オリエンテーション／研究のまとめ／文化祭における中間発表／学年発表会／全校発表会（保護者参観）
1学年	【地域を知ることと物質の循環】 自分たちが生まれ育ったふるさと、唐桑を深く知ることをきっかけに、海における物質の循環、生活における物質の循環について、課題を見付け、講話と体験活動から学ぶ。	自然体験活動（水山養殖場、舞根森里海研究所）／物の循環、リサイクル活動について学ぶ（中の浜海藻調査、アカモクについての講話）／研究のまとめ（グループで模造紙にまとめる）と発表会
2学年	【リサイクルとエネルギーの問題の実際】 水力発電所の見学、炭焼きと野外炊飯を通して、エネルギーと環境の問題について理解を深める。更に、職場体験を通して、事業所等のリサイクル意識やエネルギー問題の実際について調査する。	花山細倉金属鋳業（株）河口第一発電所（水力）見学／炭焼き体験・野外炊飯／事業所等のリサイクル意識・エネルギー問題の実際について調査／研究のまとめ（個人新聞、グループで模造紙にまとめる）と発表会
3学年	【2050年 私たちの唐桑】 リサイクル・エネルギー問題の先進地域における取組を調査する。加えて、視野を広げてエネルギーについて学び、2050年の唐桑のエネルギーについて考える。	リサイクル・エネルギー問題の先進地域における取組を学ぶ／地球温暖化と世界のエネルギー事情／原子力発電の有用性と課題／放射線と放射能／環境省シナリオ「ドラえもん型未来とサツキとメイ型未来」についての講義／女川原子力発電所の見学／課題追求活動／研究のまとめ（グループで模造紙にまとめる）と発表会

(2) 今年度、特に工夫・改善したこと

1 学年

系統性をもたせた2つの体験活動を行い、最終のまとめ活動において、プロジェクトを立ち上げるという形で提言させる活動にした。また、地域の人材を積極的に活用することや、体験活動ごとにまとめを発表する場を設け、コミュニケーションをする力を伸ばすための工夫を行った。

2 学年

企業がもつ水力発電所の見学を行った。発電の仕組みを詳しく説明していただくだけでなく、工業生産によってどれだけのエネルギーを消費し、製品が造られていくかについても学習した。そのことで、多面的・総合的に考える力を伸ばしたいと考えた。

3 学年

昨年度の生徒から引き継いだ研究の課題（技術、地理・地形的な問題など）をもとに、個人で課題設定し、その解決方法を探り、発電の種類ごとにグループでまとめた。学術的なことについて、東京海洋大にメールで質問するなど、様々な機関から協力をいただいて調査活動を行った。このような活動を通して、情報を収集し、分析する力を伸ばしたいと考えた。



1 学年 中の浜海藻調査において、講師の先生から直接質問の返答をいただいているところ

3 「国連・ESD10年」を振り返っての成果と課題

(1) ねらい、および学習内容（活動プログラム内容）の視点から

①成果： 生徒の提言の中に、「ふるさとの自然を生かした、エネルギー産業の開発と雇用の確保の必要性」などがあり、エネルギーに対する問題意識の高まりが見られた。また、中学を卒業しても「ふるさとやその環境とエネルギーのことについて考え続けていきたい」という感想もあった。

②課題： 震災などで当初に予定した活動ができないこともあったが、できる事を模索し活動を続けてきた。しかし、6年間大きな見直しもなく継続したためか、毎年同じ活動が続き、体験活動と調査・まとめ活動との関連がうまくつながらなかったことも見られた。また、2年生の学習活動は、「エネルギー」に関して当初計画から大きく内容が異なってしまう、系統性をもたせるために、改善が必要である。

(2) 指導計画、および指導体制、指導方法の視点から

①成果： 予定通りの活動ができないこともあったが、各学年のテーマに沿って活動内容を模索し、その時にしかできない活動を取り入れたり、生徒の実態に合わせて新たな内容の活動を行ったりするなど、工夫してきた。

②課題： ESD担当が全体の計画を作成し、それぞれの学年では学年主任が中心となって系統性をもたせた活動を行ってきた。しかし、「エネルギー」という生活に広く密に関係しているが、目に見えないものを指導するという、難しさを感じていた教員は少なからずおり、悩みながら指導を行ってきた。年度が変わるにつれて、当初の中心となって指導していた教員がいなくなると、体験活動と調査・まとめ活動との関連がうまくつながらず、「体験する活動」が中心の学習になっている場合も見られた。プログラムの理解不足や、各学年指導者間での十分な話し合いが足りなかったと考えられる。

(3) 育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容、評価の視点から

①成果： 生徒の活動のまとめや提言の中から、問題意識の高まりと主体的な課題解決力の高まりが見られたことから、本校のESDで育てたい資質・能力の①、②、④に関しては、身に付きつつあると考えられる。更に伸ばしていけるような、主体的な学習活動や指導の仕方を工夫していきたい。

②課題： ESDの学習だけでなく、普段の生活や学習からも、本校生徒には「批判的に思考・判断する力」や、「コミュニケーションをする力」が十分ではない。学校の全教育活動において、これらの資質・能力が向上するような指導の工夫が必要である。

